

Yomiuri Weekly に紹介されました

Yomiuri Weekly に紹介記事が掲載されました。



同社設計室の風景

Challenge 2002

エーエルティイー

測れないものを測るレーザースキャン 衰退するモノづくりを陰で支える黒子役

世界貿易機構（WTO）入りを果たすなど、中国の台頭はめざましい。表裏その中国に、製造業を中心とした日本の企業が次々と進出を急がしている。

これまでのわが国の経済基盤を支えてきた「モノづくり」の流出は、すなわち産業の空洞化を意味している。

今後、日本が世界と対等に戦っていくためには、海外生産基地では替えのきかない、独自の技術が求められることは言うまでもない。

その確かな技術が、「一九九二年ライン電子」で設立され、今年二月一日に社名変更を遂げたエーエルティイー株式会社（資本金一千万円、高野裕社長）は息づいて

いる。ライン電子設立当初から現在に至るまで、光学・電気分野を得意とする高野式と、機械分野に精通

する佐藤正和氏（現・取締役）が二人一輪で歩んできた。

社名はAero-Record、Sho-Record、e-Recordの頭文字で「応用レーザー」という意味を表す。スキャンに特化した業務を手掛けている。

同社のレーザースキャンは工場において高効率かつ、高精度でレーザーのビームをスキャンできる特徴をもつ。

これらの応用レーザー製品を主に「オーカー」に供給している。日本を代表する大手企業からの引き合いも多い。表舞台には出られないが、日本のモノづくりを支えている黒子の役割を果たしてきた。

OEM（相手先ブランド）による生産だけでなく、自社製品開発にも注力する同社、自社開発の「高次元位置測定装置

」は、測定精度が従来の十倍に向上している。

システム」は、毎分5リットル（リットル）の流量を計測するポンプシステムや、印刷機を高精度で制御するもの。内閣では決して認められない1リットル0.001分の1程度の精度も測定する精度を誇っている。

光学・電気・機械に明るい オールラウンド技術者

上には、「できるか、できないかわからないような依頼が舞い込むこともある」（高野社長）。こうした「無理難題」は、同社に対する厚い信頼の表証にはかならない。大手業には見られない特徴があればこそである。

一般的に、同業種で大規模な企業では、ライン（専門分野）ごとに特化した技術者が構成されていることが多い。

その点A社は社員がわずか十名ながら、光学だけでなく、電気、電気といった幅広い分野に明るい人材が揃う。

「オールラウンドプレイヤー」は、これまで様々な局面で取引先から重宝がられてきた。同社は、自社内で開発から製造



高次元位置測定装置システム

までを一貫して手掛ける体制は、納期の短縮、スピーディな対応につながった。

また、顧客の要望が迅速に受け入れられるにも、フレキシブルに対応することが可能になる。業務全体を見渡せるからこそ、小回りの動いた対応ができるというよう

「海外で安価に生産委託できる技術であれば、アウトソーシングすればよいと思います。それよりも、A社にできること、つまり測れないものを測る。技術者を追求していきたい。」

モノづくりの現場が賑わっているか、高野社長の話は、あくまで

東京都練馬区豊玉南一丁目二一〇
電話 〇三-五九九六-7333
http://aiti.co.jp

